



東京・池袋「東武百貨店本店」のバレンタインデー・イベント「ショコラ・マルシェ」に、パン工房ブクブクの「久遠チョコレート事業部」が出店しました

2018年度総括および2019年度事業計画

社会福祉法人いたるセンター 理事長 谷山 哲浩

2019年4月、社会福祉法人いたるセンターは、52期目の春を迎えました。これもひとえに、皆様のご理解とご協力のおかげであ

り、あらためて感謝を申し上げます。新年度をスタートするにあたり、まず昨年度の総括を発表させていただきます。

2018年度総括

I・働き方改革を実現する。就業規則と賃金規定を再構築し、職員が働き方を選択できる限定正職員制度を導入しました。

II・法人総売上18億円を目指す

3月現在、法人総売上は18億円を越す見込みです。

(1)「久遠チョコレート」を核に就労継続支援B型の工賃アップを確立する。

阿佐谷福祉工房で製造が始まり、久遠チョコレート荻窪店を開設しました。

(2) ALLいたる「就労継続支援B型・自主生産品製造・販売グループ」アメーバ単位を立ちあげる。

グリーンカレーのキッチンカーでの提供を目黒本町福祉工房が行ない、コレド日本橋での販売等を精力的に行いました。

(3) パン工房ブクブク（就労継続支援A型事業部）は、年度就労売上1億円を達成する。

杉並地域と目黒地域の就労継続支援A型でパン事業を

目次 contents

- 01 2018年度総括
- 02 および2019年度事業計画
- 03 地域ケアセンターの拡充で、「一人も取り残さない」地域福祉の確立を
- 04 「東京ホームタウン大学」でガイドヘルパーの活動を紹介！
トットARTSフェス2019+わ！しながわ障がいのあるアーティストと品川区民の合同美術展「光と陰」に参加しました！
- 予告 -
「PLAIN ART 2019」世田谷美術館で開催！

いたる賛助会入会のご案内

「いたる賛助会」では「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。
「幸せな地域社会を作りたい」がこの会設立の趣旨であります。
年会費 1口5千円（何口でも可）
郵便振り込み 00110712892
（問）330927346 事務局 山本まで

スタートしましたが、ザ・ガーデン自由が丘店撤退のため、1億円には未達でした。そこで、その人材を余すことなく、久遠チョコレート事業を開始するに至りました。

(4) 保育、看護ステーションの立ち上げ。

平成30年4月に小規模保育事業「ピヨピヨおうちえん荻窪駅前」を開設しました。

(5) 通所事業も含め、新たな事業に果敢に挑戦する。
大規模な児童館および学童保育のプロポーザルにチャレンジしましたが、次点で落選しました。

(6) グループホーム事業の拡大
昨年12月に練馬の「虹の音色」が5名から10名に定員を増やし、新設拠点に移転しました。

2019年度事業計画

今年度の事業計画を発表させていただきます。まず、「いたるセンター」は、地域において「一人も取り残さない」ための社会福祉サービスを提供し、地域包括ケアを意識したコミュニケーションの拡大をはかる」という事業方針を掲げました。

その具体的な取り組みとし



コレド日本橋等で定期的に開催されている「ハッピースマイルフェスタ」に、いたるセンターのすべての通所施設から自主生産品を出品しています

て、6つのプランを設定しております。

(1) ALLいたる「就労継続支援B型・自主生産品製造・販売グループ」

アメリカ単位を立ちあげる。

① 全事業所の自主生産品で工賃を上げる。

② キッチンカーを有効活用して稼働率を上げる。

グリーンカレーの提供で工賃を上げる。

③ 久遠チヨコレイト事業を核に、工賃アップを確立する。

④ アメーバ経営を基礎に、P↓D↓C↓Aのマネジメントサイクルから学び、目標工賃を達成する。

⑤ 学童保育事業を立ち上げる。

⑥ 訪問看護ステーションを立ち上げる。

(2) 就労継続支援A型事業部は、年度就労売上1億円を達成する。

① 百貨店などの催事売場へ出店する。

② 「食パン」の販売強化に注力する。

③ 杉並区立保育施設全園にパン導入が決定、安心安全を徹底する。

(3) 学童保育、看護ステーション等を立ち上げる。

① 学童保育事業を立ち上げる。

② 訪問看護ステーションを立



あけぼのオリジナルグリーンカレーを、キッチンカーで販売

ち上げる。

③ リハビリ型デイサービスを立ち上げる。

④ 就労型放課後デイサービスを立ち上げる。

(4) グループホーム事業の拡大を図る。

① 女性専用グループホーム（4ユニット・定員20名）を拡充する。

② 共生型グループホーム（精神障害者・高齢者等）の運営を開始する。

③ のれん分け制度をスタート。のれん分けでグループホームを拡充する。

(5) 求める人材の多様化を推進する。

外国人を積極的に採用し、留学生や海外技能実習生を迎え入れる。

(6) 通所事業も含め、新たな事業に果敢に挑戦する。

「ゆりかごから墓場まで」の隙間のない福祉サービスを提供する。

以上、この6つのプランに加えて、



活躍するフィリピン人職員を母国の方々が激励に訪れました

中長期計画として、共生型グループホームも合わせて総拠点50か所（総利用者数500人）の整備を目標としました。

これらの事業計画は、今後も持続・継続的に、またより良い福祉・介護・医療サービスをご利用者様に提供していくために必要不可欠な施策と考えております。何卒、社会福祉法人いたるセンターにご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2014年4月、杉並地区の地域ケアセンターは、グループホーム事業部とサポートウイズ事業部を合併して設立しました。グループホームは3つの事業所を設け、男性専用ユニットを9拠点、女性専用ユニットを4拠点整備し、68名のご利用者様が入居されています。また、サポートウイズは移動支援を通じ、障害者の地域生活を支援し、高齢者のケアマネジメントを行なう居宅介護支援により、重度化・高齢化にも対応してきました。すまいる高井戸といった相談室は、これらの地域包括ケアを支える相談業務を担っています。さらに、訪問看護ステーション「いたる訪問看護ステーション」を新設し、医療的なバックアップも確立していきます。これは、妊娠初期から産前産後期

社会福祉法人いたるセンターでは、日中活動を行なう通所施設だけでなく、生活拠点となるグループホームや活動の場を広げる移動支援等の整備に注力してきました。今回は杉並地区と世田谷地区の地域ケアセンター構想をご説明します。

地域ケアセンターの拡充で、「一人も取り残さない」地域福祉の確立を 〜世田谷地区・地域ケアセンター構想〜

と乳幼児に対する母子支援、障害児や障害者に対する医療的ケア、回復期や慢性期など的高齢者が住みたいと願う場所において、

杉並 地域ケアセンター					
グループホーム			サポートウイズ		
ワルツ事業所 4ユニット:23名	ポレロ事業所 3ユニット:15名	ジャズ事業所 8ユニット:35名	移動支援	居宅介護支援	
いたるホーム 男性:5名	ボルカ 女性:5名	バラード 男性:5名	いたる訪問看護ステーション		
らら+サテライト 女性:5名	タンゴ 男性:5名	ジャズ 男性:4名	(新設) 訪問看護		
ワルツⅠ 女性:8名	南荻窪 男性:5名	ブルース 男性:4名			
ワルツⅡ 男性:5名	虹の音色Ⅰ 男性:5名		虹の音色Ⅱ 男性:5名		
		シンフォニーⅠ 男性:6名			
		シンフォニーⅡ 女性:4名	シンフォニーⅢ 男性:2名		
すまいる高井戸 (杉並区障害者地域相談支援センター)			いたる相談室 (指定特定相談支援等)		

※破線囲みの事業所は開設予定

世田谷 地域ケアセンター					
グループホーム			中期構想にて開設予定		
パンブル事業所 2ユニット:10名	ビートル事業所 4ユニット:25名	アネモネ事業所 4ユニット:20名	移動支援	居宅介護支援	
パンブルⅠ 男性:5名	ビートル 男性:10名	のぞみ寮 女性:5名	中期構想にて開設予定		
パンブルⅡ 女性:5名	カノンⅠ 男性:5名	アネモネⅠ 女性:5名	訪問看護		
		アネモネⅡ 女性:5名	中期構想にて開設予定		
成城九丁目 男性:5名		プリムラ 女性:5名	相談支援		

※破線囲みの事業所は開設予定

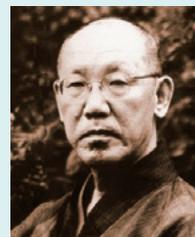
誰一人取り残さないような看護を提供していきます。ひとつの社会福祉法人の各事業部が、異なるさまざまなサービスを提供できる点に大きなメリットがあります。世田谷地区についても、まずはグループホームの整備を進め、3事業所・8ユニット55名のご利用者様が入居できる計画を今年度中に実施します。これに加え、移動支援や訪問看護などのサービスも中期構想にて整備していきます。

理事長の一言

「一燈照隅 萬燈遍照」

安岡正篤先生の言葉

伝教大師最澄は「山家学生式(さんげがくしょうしき)」の冒頭で、「一隅を照らす=社会の一隅に居ながら社会を照らす生活をする=その人こそが国になくてはならない宝」と伝えました。安岡正篤先生は、この言葉を踏まえて、「まず、自らが居るその場を照らすことが大切です。そうした誠心誠意の歩みを続けていけば、いつか必ず共鳴する人が現れることでしょう。一燈は二燈となり三燈となり、いつしか万燈となって、国を照らすようになります」と語っています。天下国家をあれこれ論じるよりも、まず、自分が居る場所を明るく照らせる人となることが重要です。すべての人々が自分のいる場所を明るく照らせば、その灯りは人の数だけ大きく強くなります。すべての人々が「一隅を照らす」ことができるようにする歩みこそが、「一人も取り残さない」という福祉の在り方と重なってくるのです。



安岡正篤

ピックアップいたる

高齢化に対応した地域づくりを応援するイベント!

「東京ホームタウン大学」で ガイドヘルパーの活動を紹介!



千駄ヶ谷の津田塾大学で開催、分科会の会場は満員御礼の大盛況でした

東京ホームタウンプロジェクト・2018年度総括イベント「東京ホームタウン大学」のテーマ別分科会「シニアの力を発揮し地域に活かす」の中で、地域ケアセンター「サポートウイズ」が登壇。知的障害者の移動支援を行う「ガイドヘルパー」の活動を紹介するとともに、誰もが地域で自分らしく生きていくことの大切さ、シニアの方が活躍されている現状などを発表しました。資格を取得すれば、収入を得ながら地域社会・地域福祉に貢献できる点などに注目が集まりました。

東京ホームタウンプロジェクト 超高齢社会に対応するため、「いくつになっても、いきいきと暮らせるまちをつくる」を合言葉に、人がつながり、安心して暮らせる地域づくりを東京都が応援するプロジェクトです。認定NPO法人サービスグラントが募集したプロボノ（専門知識・技能を持ったボランティア）がチームとなり、組織の課題解決や事業展開に向けた支援を行います。



いくつになっても、いきいきと暮らせるまちをつくる
東京ホームタウンプロジェクト
TOKYO=HOMETOWN PROJECT



サポートウイズの塚田さんと山崎さんが登壇

トットARTSフェス2019+わ!しながわ 障がいのあるアーティストと品川区民の合同美術展「光と陰」に参加しました!



品川区大崎の「O美術館」で開催、多くの方が観覧されました

社会福祉法人トット基金が立ち上げた「アーツサポ東京」は、障害者の芸術活動を支援する団体です。その合同美術展「光と陰」に、社会福祉法人いたるセンターの通所施設に通うご利用者様の作品15点が、展示されました。品川区の大崎ニューシティにある「O美術館」には、多くの観覧者が訪れました。



「トット基金」は、黒柳徹子さんの著書の「窓際のトットちゃん」の印税を基に設立



ご利用者様の力作を数多く出展しました

いたる広報委員

発行責任者= 谷山 哲浩
社会福祉法人いたるセンター
〒167-0032
東京都杉並区天沼1-15-18
TEL: 03-3392-7346
FAX: 03-3391-8039
Eメール: info@itarucenter.com
HP: http://www.itarucenter.com/
発行日/2019年4月1日

ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。
いたる広報委員まで。



予告

「PLAIN ART 2019」世田谷美術館で開催!

イタル成城・生活介護事業部では、その活動内容に「創作活動」を掲げ、絵画や陶芸などの「アート活動」を積極的に行っています。ご利用者様の作品の発表の機会として、今年も世田谷美術館にて展覧会「PLAIN ART 2019」を開催します。ぜひ、お問い合わせの上、お越しくださいませ。

会期 2019年4月30日(火)~5月5日(日)
10:00~18:00(4/30は13:00開始、5/5は16:00終了)
会場 世田谷美術館・区民ギャラリー(無料)
場所 東京都世田谷区砧公園1-2(03-3415-6011)
東急田園都市線「用賀」駅
美術館行きバス「美術館」下車 徒歩3分



フォレロ・アンジーさんの作品「さくら」です